

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(3月4日～3月10日)

2024年3月19日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領が2025年の大統領選挙に出馬する旨発言(3月5日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●戦時下における国家機関の移管手続に関する大統領決定

・ルカシェンコ大統領は、大統領決定「戦時下における国家機関及びその他の団体の移管について」に署名。

・同大統領決定は、戒厳令が発令されている間、特定の国家機関や一連の組織の代表に軍人の階級を与える可能性を規定。

・軍事的脅威が高まっている時期や戦時下においても、国家機関の組織的かつ円滑な機能を確認することが可能となる。

(3月4日 大統領府)

●次期大統領選挙に関する発言

・ルカシェンコ大統領は、2月25日、下院・地方議会議員選挙の投票所にて、2025年の大統領選挙に出馬するか否かを聞かれ、「出る、出る、出る」と回答。

・一方、3月5日、自身の上記発言に関して、「自分(ルカシェンコ大統領)は、質問を最後まで聞かずに「出る、出る」と回答した。これは、自分(ルカシェンコ大統領)が既に決断したとか、決定をしたということではない。ただ、出るから心配するなど言いたかっただけだ。出るか、出ないかを言ったのではない。全ては、我々がこの選挙にどう臨むかにかかっている。突然、信頼に足る人物が出てくるかもしれない。全てのことがあり得る」と付言。

・さらに、全ベラルーシ国民会議は自身のために創設されたものではないとし、「自分はこの仕事にはこのとおりうんざりしている。これは最も過酷な労働である」と発言。

・また、自身は「永遠ではない」と強調し、「ベラルーシ人は新しい大統領の下で生活することになる」と発言。

(3月5日 大統領府、「ゼルカロ(鏡)」)

【内政】

●3月7日現在の政治犯の数は1,414人

(3月7日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●フレニン国防大臣は、ハルムハメドフ・ウズベキスタン軍参謀総長と会談(於:ミンスク)

・フレニン国防大臣は、東欧地域の軍事・政治情勢について言及し、中央アジア地域における課題と脅威に対する見解の一致を指摘。

(3月4日 国営ベルタ通信)

●ラトビアはベラルーシ、ロシアとの国境の防衛を強化する計画を承認

・ラトビアは、今後5年間で3億300万ユーロを国境の防衛強化に充て、ベラルーシ及びロシアとの国境に、対戦車溝や対戦車地雷、弾薬庫等を含むラトビア軍の支援拠点を設置する予定。

(3月6日 「ゼルカロ(鏡)」)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(3月4日～3月10日)

・リトアニア国境では不法越境の試みは確認されず。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも140人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも449人を阻止。

(3月5日～3月11日 Pozirk)

【治安・犯罪】

●露連邦保安庁(FSB)職員によるベラルーシ人活動家の殺害

・3月6日、ベラルーシ人活動家で2020年の大規模

抗議活動にも参加していたニコライ・アレクセエフ氏が、ロシアのカレリア共和国オロネツ地区で殺害された。

・露捜査当局によれば、同氏はオロネツ市の行政機関を爆破しようとしていたため、拘束しようとしたが、抵抗したため殺害。

・3月7日、FSBはアレクセエフ氏殺害の動画として、廃墟の中にいた男性を銃撃する動画を公開。

・「BELPOL(元治安機関職員による内部告発団体)」は、上記動画は明らかに演出されたものであり、フェイクである可能性が高いとコメント。

(3月6日 露「Astra」Telegram、7日「ゼルカロ(鏡)」)

【経済】

●ベラヴィア航空は、3月4日以降ミンスク発ドーハ行の運航を再開

・2024年10月末まで運行予定。

・2023年8月末にも運航が再開されると報じられたが、同年9月下旬にカタール当局が運航許可を取り消していた。

(3月4日 ベラヴィア航空、「ゼルカロ(鏡)」)

●ユーラシア経済同盟(EAEU)加盟国からの運送業者に対し、EUとの国境にある積替・中継地点への立ち入りを許可

・これまでは、ベラルーシ及びロシアで登録されたトラック及び牽引トラクターのみがアクセス可能だった。

(3月5日 法律ポータル)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

(1)ブルガリア訪問(3月4日、5日)

・デンコフ首相、ガブリエル外務大臣らとそれぞれ会談。

(2)ルーマニア訪問(3月6日、7日)

・欧州人民党大会に出席。

・オドベスク・ルーマニア外務大臣、ミツォタキス・ギリシャ首相、プレンコヴィチ・クロアチア首相、タヤーニ・イタリア外務大臣、ポプショイ・モルドバ外務大臣とそれぞれ会談。

(3月11日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

●在外ベラルーシ・ビジネス連盟(ABBA)と非抑圧者支援団体「BYSOL」は、女性政治犯のため1万ユーロ以上の募金を達成

(3月4日 Pozirk)

【統計等】

●欧州評議会は、2023年、ベラルーシで20人以上のジャーナリストが拘束されたと報告

(3月5日 欧州評議会、Pozirk)

●2020年大統領選挙以降少なくとも1,563団体のNPOが廃止

(3月7日 Pozirk)

●2023年にベラルーシを訪問した外国人は約160万人(前年比約20万人増)

・ヴォロノヴィチ・スポーツ・観光省観光局長の発言によるもの。

・同局長によれば、このうち75万人がロシア人。

・2019年と比較すると、ベラルーシを訪れる外国人の数は3分の1に減少している。

(3月10日「ゼルカロ(鏡)」)

(了)